

トーマス・バッハ I O C 会長殿

I O C 幹部の発言への抗議と東京大会中止・延期を求める要請書

この間の I O C 幹部の以下の発言に強く抗議し、謝罪と撤回を求める。

*ジョン・コーツ調整委員長・I O C 副会長：緊急事態宣言下でも大会を開催するのかの質問に「完全にイエスだ」述べた。

*トーマス・バッハ I O C 会長：東京大会開催のためには「誰もがいくらかの犠牲が必要だ」述べた。

*ディック・パウンド I O C 委員：「菅首相が中止を求めても開催される」と述べた。

こうした一連の発言は、コロナ禍で命と健康を守るために必死に努力している日本国民の深刻で切実な声を無視した傲慢な発言と態度であり、オリンピック憲章の精神と無縁のものであり、謝罪と撤回を強く求める。

同時に我々は、I O C が今夏の東京五輪の中止あるいは延期の勇気ある決断をすることを強く求める。

日本国民の 70%~80% は今夏の東京五輪の中止あるいは延期を望んでいる。世界で、新型コロナウイルスパンデミックがまだ収束に向かっていない段階にあつて、日本と世界の人々の命と健康をさらなる危険にさらす可能性が高い東京五輪の開催を強行することは絶対に避けるべきである。コロナ禍では、アスリートの公平なトレーニングや競技条件を保障できない状況が広がっており、真にフェアでだれからも祝福される五輪にはならない。

五輪大会の開催と運営に投入されているあらゆる資源を、新型コロナウイルス感染予防対策に振り向けるべきである。そのためにも今夏の五輪は中止あるいは延期すべきである。これが、いま I O C はもちろん世界スポーツ界が決断すべき唯一の選択である。

もし、今夏の東京五輪の開催を強行すれば、オリンピック 125 年の歴史に終焉をもたらす最悪の選択であるといわざるを得ない。

2021 年 6 月 10 日

2020 オリンピック・パラリンピックを考える都民の会
共同代表 荻原 淳 横山 聡 和食昭夫